

令和5年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立城北中学校

1 自己評価書

教育目標		志高く瞳きらめく生徒の育成				
基本方針		自他の成長を願う教師集団が、家庭・地域と連携・協働したコミュニティ・スクールを推進し、思いやりの心を持って明るく組織的に取り組むことで、生徒の健全育成を図る。				
本年度重点目標		(1) 確かな学力の定着 (2) 豊かな心の育成 (3) 瞳きらめく活動の充実				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成	/	/
			・具体的な対策の実施			
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート	A	B
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	B		
	②	授業改善	ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート	A	A
			・児童生徒アンケート	B		
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート	A	
	・保護者アンケート	A				
	・児童生徒アンケート	A				
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	A	B
				・保護者アンケート	C	
				・児童生徒アンケート	C	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	A	B
				・保護者アンケート	B	
・児童生徒アンケート				B		
⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	A	B	
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	B		
<p>(成果と課題)</p> <p>○eライブラリなどの学習支援機能を使用し、一人1台端末による個に応じた学びを進めることができた。</p> <p>○家庭学習では、家庭との連携方法に課題があり、生徒の実情を踏まえながら、再検討が必要である。</p> <p>○1年生は宇和島の歴史、産業、文化など5講座に分かれて、地域学習を行った。地域の協力を得られたことで、生徒の地域への興味・関心を高めることができた。</p> <p>○2年生は海事産業ものづくり講座を実施し、造船や船の仕事などについて詳しく学ぶことができた。</p> <p>○3年生は職場体験学習に向けて、地域の職業についての学習を進め、体験活動にむけた依頼や生徒の希望調査を行った。</p>						
<p>(改善策等)</p> <p>○生徒の学習状況を家庭に知らせる工夫・改善を行う。</p> <p>○各委員会の取組を活性化させ、学習や朝読書の目的を生徒が理解し、意欲的に取り組むことができるようにする。</p> <p>○全学年、文化祭での総合の発表に向けて、学習を深めていく。どの学年も地域の協力なしでは実施できないので、各事業所と連絡を密にとる。</p>						

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A	
			・保護者アンケート	A		
			・児童生徒アンケート	A		
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
		いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。		・教師アンケート	A	B
				・児童生徒アンケート	A	
				・保護者アンケート	C	
	③ 基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。		・教師アンケート	A	B
				・児童生徒アンケート	B	
				・保護者アンケート	C	
	④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。		・教師アンケート	A	B
				・児童アンケート	C	
		自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。		・教師アンケート	B	
				・児童アンケート	B	
<p>(成果と課題)</p> <p>○登下校指導や業間、昼休みの巡視等で、少しずつ中学校のルールや校則を守る意識を高めることができた。今後も個別に丁寧な指導を継続したい。</p> <p>○不登校傾向の生徒の特性に応じて、柔軟な対応ができた。</p> <p>○生徒間のトラブルにも丁寧な聞き取りを行うことで、大きな問題になることはなかった。</p> <p>○SNS等の使い方についての学習や、全体指導ができなかったことが課題である。</p> <p>○学校生活が大きく乱れている生徒はいないが、遅刻の多い生徒、授業中の居眠りをする生徒が数人見られた。学担や教科担任だけでなく、学年部や学校全体、そして家庭との協力をしながら、改善できるよう継続して指導をしていく必要がある。</p> <p>○7月に自己肯定感調査を実施した。自分に良いところがあるが、74%(昨年度63%)に、自分のことが好きも、74%(昨年度62%)に向上した。生徒会活動・人権集会・保健集会・学級での良いところ探しなど、自分を大切する取組から成果が出た。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○学担・学年主任だけでなく、組織として早めに対応する。特に、指導が難しい生徒については、人間関係も考慮して指導を行う。</p> <p>○教育活動全般において、人権意識が高まるよう啓発する。</p> <p>○学校だけで対応するのではなく、必要に応じて関係機関との連携を強化することで、保護者の理解を得て家庭生活の改善につなげる。</p> <p>○昨年度と比較したら、自己肯定感が育まれている生徒が多くなっているが、2年・3年の生徒の中には、1年から継続して自己肯定感の低い生徒がいる。その生徒に対しては、今後も、日常の学校生活から勇気づけにつながる言葉掛けを全職員がすることで、生徒との良好な関係性を築きたい。この調査を継続して実施しているからこそ、生徒の変容が分かり、生徒理解につながるので、学期ごとに実施していきたい。受け身ではなく、委員会活動を通した様々なワークを実施し、生徒自身の心を元気にしていきたい。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 <u>教職員の意識改革</u> に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A	
	② 働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。		・教師アンケート	A	A	
③ 他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○教職員の業務に携わる時間を確保することができ、時間外勤務が80時間を超える教職員が減った。また、通知表の所見を簡素化することで、生徒と関わる時間を確保することができた。</p> <p>○PTA運営委員会と連携し、PTAバレーボール大会を中止にしたり、学級レクレーションを宿泊なしにするなど、PTA行事の精選を行うことができた。</p> <p>○ノ一部活動日を設定し、計画的な部活動運営を行うことができた。</p> <p>○学年部を中心に、学年行事を考えたり、積極的に雑談等を行ったりすることで、助け合いながら活力があり明るい雰囲気の職場となっている。</p>					
<p>(改善策等)</p> <p>○学年部内、行事担当者の業務内容の平準化に努める。</p> <p>○学年部や担当者にある程度の決定権を持たせ、迅速に業務に取り掛かれるようにする。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・地域アンケート		
			・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
	・地域アンケート				
	③ 来校・相談体制	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
・地域アンケート					
<p>(成果と課題)</p> <p>○学校運営協議会の役員が制服検討委員会のメンバーに入り、制服決定に向けて取り組んだ様子を校長だよりやホームページで発信することで、学校運営協議会の取組を保護者に理解してもらうことができた。</p> <p>○学級通信の数多くの発行により、保護者に対して学級の様子をリアルタイムに伝えることができた。</p> <p>○事務室と連携しながら、保護者や来校者に対して誠実な対応ができた。</p>					
<p>(改善策等)</p> <p>○引き続き、校長だより、ホームページ等で学校運営協議会を含めた情報発信に取り組んでいく。</p> <p>○学校の窓口となる事務室と今以上に連携を図り、来校しやすい雰囲気づくりに取り組んでいく。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受け、学校行事等に地域の方を呼んだり、協力を依頼したりする体制を整えていく。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満